



## もくじ

- 1 テーマ別改善運動発表会
- 2～3 平成30年度事業計画・主要行事計画
- 4 第26回院内研究報告会
- 5 春の発表会・フォトギャラリー
- 6～7 マイ・ワールド・フォトギャラリー
- 8 人事異動

## センター初

# テーマ別改善運動発表会で**優秀賞!**

第2病棟 生活支援科主任 松永正人



2018年1月22日(月)に都庁で行われた上記の発表会で、「**ベッド柵上げ忘れを防ぐ ～対策と用具の開発～**」の演題で発表し、「優秀賞」をいただくことが出来ました。この場をお借りして、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

ベッド柵上げ忘れ対策については、私が主任になったばかりの10年ほど前から、意識向上や注意喚起以外のハード面での工夫は出来ないものかと、考えを巡らせては具体的なイメージを描いたりしてきました。今年度病棟での話し合いの中で、看護師長がベッド柵上げ忘れが度々起こる現状に「打つ手がない」と嘆かれた事をきっかけに、これまでのアイデアを基に、取り組みを始めさせていただくこととなりました。

今回発表させていただいたのは、物理的対策である「転落防止チェーンやまと」を活用した事故防止の取り組みだけではなく、インシデントレポートを様々な観点から分析し、対策を講じた経過も含めてのものでした。その中で感じたことは、やはりリスクマネジメントは、いかに人間の不確かさに関与させないよう



か、が重要だということでした。一昨年に都庁で発表した時と比べて、発表会全体について感じたことは、プレゼンテーションにかかる本気度が上がっているということでした。最優秀賞の発表は、企業の新商品発表会を思わせるようなプレゼンテーションで、動画や様々な工夫を凝らしたスライドや、プロのような流暢さで、12分間原稿を見ないで発表を演じきったことに、度肝を抜かれました。そこまでは求められていないにせよ、プレゼン能力の評価では大きな差が開いたのではないかと思います。勿論取り組み内容が重要ですが、音楽に例えるなら、最優秀賞の所はバンドやオーケストラの伴奏で、振り付けもあるようなプロデュースされた演奏。私の発表はギター1本での弾き語り、という感じでした。思いはまっすぐ伝えられたかもしれませんが、レコード大賞を取るのには難しい?!ですかね。その他の審査基準では、テーマにトレンド感があるか、部署間や地域との連携がなされたか、院全体で取り組む姿勢や一体感があるか、などが評価されているように感じました。「我こそは、最優秀賞を!」という方がいらっしゃいましたら、是非とも参考にさせていただければと思います。

# 平成30年度 事業計画

当センターは、重症児の年長化に対応するとともに、短期入所など在宅の重症児者への支援にも力点を置いた重症児者施設として1992(平成4)年に開設されました。

開設当初から、全国重症心身障害児(者)を守る会が東京都の委託を受けて管理運営を行ってききましたが、平成18年度以降守る会が東京都の指定管理者として指定を受け、平成28年度に二回の更新を経て、三回目の指定管理者として10年間の指定を受けました。引き続き、指定管理者として事業の充実に努めていきます。

- ・長期入所は、開設以来18歳以上の利用者が継続して利用しています。利用者の加齢などにより、人工呼吸器などの濃厚な医療が必要な利用者が増加しており、今後ともその対応やQOLの向上を図っていきます。
- ・短期入所は、医療ケアが必要な年少の重症児の利用希望の増加に対応するとともに、新規利用者の受け入れにも力を入れ、さらなる利用率の向上を実現します。
- ・通所は、多摩地区の近隣の市町村から受け入れ、定員30名で運営します。受け入れ時間の多様化、臨時受け入れの増加などサービスを充実していきます。
- ・外来は、患者の診察までの待ち日数の短縮を図るため、引き続き診療能力の向上に努めていきます。
- ・施設理念の実現に向け、より専門能力をもった人材とコスト意識を備えた経営センスに富む人材育成を目指します。
- ・看護師を中心とした職員の確保、定着対策を進め、円滑な事業運営を図っていきます。
- ・今後長期に渡り施設を運営していくため、施設本体の「大規模改修」に着実に取り組みます(本年10月仮設棟に引越予定・平成32年度改修終了予定)。

今年度も、当センターは関係機関と連携し、より良い利用者サービスの提供のため、職員が一丸となって事業推進に取り組みます。

## 1 運営方針

- (1)利用者ニーズや社会情勢の変化などを迅速に把握し、指定管理者制度を活かした効率的、効果的な事業運営を進めます。
- (2)中期計画を着実に推進し、安全で安心できる、より質の高い療育サービスを提供します。
- (3)短期入所の利用率向上、通所のサービス向上などを通じて、在宅支援事業の一層の充実強化を図ります。
- (4)利用者家族などへの丁寧で分かりやすい説明と接遇の向上に努め、納得と信頼の施設の実現を目指します。
- (5)職員の能力向上に向けた制度づくりを進め、高度かつ専門的な知識、技術を身につけた人材を育成していきます。
- (6)関係法令、各種規則、マニュアルなどルールを遵守し、正確で迅速な情報の共有化のもと、公平かつ公正に業務を遂行します。

## 2 事業内容

### (1)入所・入院（医療型障害児入所事業、療養介護事業）

定床128床

- ①長期入所は、92床で運営します。
- ②短期入所は、28床で運営します。
- ③医療入院は、8床で運営します。
- ④短期入所、医療入院は枠にこだわらず、日程調整により空床を利用して 多くの在宅者が利用できるよう、病床利用率の向上を図ります。

### (2)外来診療（診療事業）

- ①事業規模は一日当たり100名ですが、引き続き、受診の要望に可能な限り応えていきます。
- ②診療室及び安全な歯科治療のための手術室の効率的な運用により、待ち日数の短縮を図ります。
- ③地域の医療機関との連携を促進し、心身障害児者の専門医療に対する要望に十分応えられるよう努めてまいります。

### (3)通所（生活介護）

- ①在籍者39名、一日受け入れ人数30名で運営します。
- ②ご家族の負担を軽減するため、通所バスは5台で送迎を実施します。

### (4)在宅支援

医療ニーズの高い在宅障害児者の増加と、地域で共に暮らしながら障害児者を支えているご家族の高齢化に配慮して、在宅支援施策のさらなる充実に努めます。

### (5)地域社会との連携

- ①市町村や特別支援学校などの健診や相談事業への協力を通じて、地域医療の充実と向上に寄与します。
- ②ボランティアの積極的な受け入れや入浴施設、プールの施設開放事業の推進、地域への普及啓発活動を通じて、障害児者を地域で支え合う基盤を築いていきます。



# 平成30年度 主要行事計画



## 病棟・通所行事

### ●大行事

- 東大和フェスタ【6月23日(土)】
- クリスマス会【12月】
- 成人式【1月】

### ●季節の小行事

お花見、七夕、夕涼み、お月見、節分、ひな祭り等

### ●ボランティアによる音楽会

- 東大和南高等学校吹奏楽部【4月】
- 多摩スマイル吹奏楽団【7月】
- 駒澤大学高等学校吹奏楽部【9月】

## リハビリテーション科行事

- 生け花・ダンスパーティー【6月】
- ポッチャ大会【7月】
- 制作展【9月】
- 音楽会【11月】
- アクティビティーフェスタ【1月】
- 春の発表会【3月】

## 栄養科行事

- 季節の特別食  
お花見食、七夕食、ハロウィン食、お節料理、ひな祭り食等
- バイキング食

## 平成30年2月28日開催 第26回 院内研究報告会

# 身体拘束への取り組みが最優秀賞受賞

当センター開設当初から開催している院内研究報告会も、今回で第26回目を迎えることとなりました。毎年、日々の業務改善状況を確認しつつ、研究成果の発表を通して、学術的資質の向上と院内外の評価を受ける機会としております。今回の院内研究報告会は、院内から6演題、院外から1演題の計7演題の口頭発表となりました。

また今回は特別講演として、東京都主催「平成29年度テーマ別改善運動発表会」の優秀賞受賞演題を、この場を借りて改めて発表致しました。

特に優秀な研究については、外部学会等への発表および論文を専門誌に発表するようにしております。近く全演題を論文の形で補正し、「東京都立東大和療育センター研究報告集 第26巻」として発刊する予定となっております。



### 最優秀賞

- 身体拘束の工夫により重症心身障害者のQOL向上につなげるための取り組み  
第1病棟 船木恵美子 他

### 優秀賞

- 「思い」「気づき」を活かす療育  
よつぎ療育園 中山眞理 他

### 努力賞

- 重症心身障害をもつ子の父親の思い  
第3病棟 豊川尚平 他

### その他の演題

- 経管栄養注入前の事前経口摂取が重症心身障害者の脳機能に与える効果について  
医局 元橋功典 他
- 酵素入浴による皮膚乾燥改善への取り組み  
第4病棟 楠田綾 他
- 入所者における粗大運動機能の変化と要因の検討  
リハビリテーション科 伊藤久美子 他
- 気管カニューレをしている重症心身障害児者に対してベッド・車椅子間の安全な移乗方法の確立  
第2病棟 稲富清貴 他

### 特別講演【平成29年度テーマ別改善運動発表会 優秀賞受賞演題】

- ベッド柵の上げ忘れを防ぐ ～対策と用具の開発～  
ベッド柵 ほんとはみんなアゲ隊 古管美納 他





私は、医学部を卒業して30年目になります。研修医の頃に習った疾患名の中に、今となっては存在しないものもあれば、研究が進んで新たに知らなければならない病気もあります。当然、治療方法も全く過去とは違います。常に医師として、最先端の知識に追いつくのに必死です。薬も変わりました。30年前は一般的な薬であったものが、今では全く使われなくなったか、使用するべきではない薬もあります。

私が医者になった頃には、「発達障害」などという言葉はありませんでした。有名な「アスペルガー症候群(障害)」という言葉は、最近の「発達障害」の診断基準では「自閉症スペクトラム障害(症)」に組み込まれ、医学的にはその病名は存在しなくなりました。ワクチンも同様です。現在の定期接種では、子供にはかわいそうぐらいのたくさん注射を受けなければなりません。でも、過去にはよくあった「のどが赤いですね」という診察風景は激減しました。おそらく肺炎球菌ワクチンの恩恵です。事実、現在の小児医療では、抗生物質(今は抗菌薬と言います)の処方、ほとんどの小児科医はしません。なぜなら、ほとんどがウィルス性疾患で必要がないからなのです。ウィルスや溶連菌の迅速診断が、保険適応になったことも貢献しています。

今、小児科医を志望する医学生が減っているといえます。それは少子高齢化もあるのですが、子供の入院できる病院が減っているので、小児医療が研修できる施設が減っているからなのです。

私の研修医時代は、一般病院でさえ年間800人の小児科入院がありました。今は、クリニックレベルで治療できるようになり(良いことですが)、子供が入院できる病院が激減しています。

反面、専門性を求められる時代になりました。東大和療育センターは、その意味では専門性の最たる施設です。私の母校でも、「発達障害」や「重症心身障害児・者の医療」に関して教育しなければならないと、私のような者が学生講義や若い医師の指導を行うようにならざるを得なくなりました。テレビ受けするような花形の医療ではないけれども、一般小児医療から障害児・者医療に入って18年たっ

た今、次世代に受け継ぐことが自分の使命と考えるようになり、タスキを渡すべく走ることにしました。箱根駅伝のように、フラフラになりながらも…。(平山恒憲)



東京の桜は開花宣言があったのに、センターの桜はつぼみが膨らんでいない。「いつ咲くの？」と、毎日桜の木とにらめっこしていました。つぼみがピンク色になり、枝先から開花し、気がつけば満開になっていました。仮設棟の工事のため少し小振りになった外周の桜並木ですが、見ごたえは十分です。病棟の居室から見える2本の桜も満開です。センターが開設した時に見た桜の木が、こんなに立派になるなんて…。何よりも、それを見上げている私がいることも、想像していませんでした。



3月26日に、利用者さんとお花見ランチを楽しみました。穏やかな日差しに加えて、時に心地よい風が吹いていました。花粉症の人にはちょっと酷だったようです。そういえば、去年は桜吹雪のランチでした。ご飯の中に花びらが舞い込んだり、身体中に花びらが舞い降りたりで、口の中にまで入りそうでした。第4病棟は、病棟のそばに桜があり、気軽にお花見ランチができることが特権だと思っています。

桜は、おしべの部分が白い時が見ごろで、ピンク色になると散り始めるそうです。だから、今年のランチの時は全体的に白く見え、去年はピンクに見えたのだと納得しています。いつの日か桜前線と一緒に北上しながら、各地の桜を見ることを夢んでいます。(川原ゆかり)

## フォトギャラリー～栄養科～



ひなまつり



節分

誕生日食(ソフト食)



寿司



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

## そよ風 第92号

編集 院内報そよ風編集委員会  
発行日 平成30年4月15日  
発行 東京都立東大和療育センター  
東京都東大和市桜が丘3-44-10  
TEL 042-567-0222